

令和元年第1回 運営協議会報告書

報告年月日 令和元年12月16日(月)

報告者 齊藤 富美子

1. 用務	令和元年度 第1回運営協議会			
2. 日時	令和元年12月14日(土) 13:30~15:00			
3. 会場	アイーナ8階 801 特別会議室			
4. 参加者	県企画室 成田 雄氣	主査	センター 野澤 日出夫	センター長
	県企画室 目時 麻由	主査	センター 佐々木 明宏	副センター長
	運営委員 中島 清隆	委員	センター 櫻井 則彰	事務局長
	運営委員 生田 弘子	委員	センター 齊藤 富美子	センタースタッフ
	運営委員 加藤 直子	委員	センター 丸尾 美由紀	〃
	運営委員 千田 恭平	委員		
	5. 議事	第2回運営協議会の開催		
	<p>※実施写真添付 環境学習交流センターにお集まりいただき野澤センター長がセンターについて説明 その後8階801特別会議室に移動、次第に沿って進められた。</p> <p>【会議の内容】</p> <ol style="list-style-type: none">1 開会2 代表理事挨拶3 両センター評価について4 議事<ol style="list-style-type: none">1) 両センター事業実績説明2) 今後の運営に向けて5 その他6 閉会 <p>1 開会の言葉 佐々木事務局長より</p> <p>2 代表理事挨拶</p> <p>【挨拶内容】</p> <p>本日協議会開催のご案内を致しましたところ、年末のお忙しい中・また、お寒い中を遠路ご出席くださいまして有難うございました。</p> <p>また、日ごろご指導頂いております県当局からもオブザーバー出席を頂きまして感謝申し上げます。なお、長年ご協力を頂いて参りました鈴木満委員は、このたび外務省の発令で、医師としてバンコクへの赴任が決まり、運営協議会委員を辞退されました。(来週末のフライトで出国します)</p> <p>近年、異常気象による甚大な災害が各地で報じられていて、岩手県に於いても大きな被害が発生しています。被災された方々に心からのお見舞いを申し上げます。</p> <p>この異常気象や環境変化は、地球温暖化によることは明確であり、今後もこの変化は常態化し、どこの地域が被災地となるか、全く予断を許さない状況にあります。</p> <p>本年度のセンター活動も、早8か月が経過し、本のご案内の通り4月~11月の活動実績・センター運営についてご評価を頂きたいと思っております。</p> <p>昨年度末から、スタッフに欠員が生じ補充もままならないまま、センターの組織体制を新たに立て、またこの10月よりウェブ担当ディレクターの採用などで取り組みました。</p> <p>そのこともあり、順調に進捗していること、未達の事案などございますが、来月から新たな人材も確保でき、年度末に向けて遅れている活動についても鋭意進め完遂する積りしております。</p> <p>一方、センター活動で最も重視しております活動における「安全」について、本年も無事</p>			

故で活動してきております。ほとんどのスタッフ・私どもも「上級救命講習」を終了していることと、毎年全スタッフ参加での安全講習・安全実習を行うとともに、特に野外イベントにおいては、事前安全チェックを徹底するなど、安全意識の向上が図られているものと思っています。

皆様ご存知の COP25 チリ会議が、マドリードで開催されており、各国間の調整ができず会議が延長されていますが、国連事務総長が、地球温暖化に大きく関与している石炭火力発電に言及した、翌日に梶山経済産業大臣の「石炭火力は、日本の将来エネルギーの選択肢」発言で不名誉な「化石賞」受賞となりました。

一昨日の小泉環境大臣の演説についても、日本の政策について明快な説明ができず、二つ目の「化石賞」となりました。

パリ協定は、地球温暖化をいかに抑えるかが課題でありますので、政治的に解決する問題ではありませんが、将来世代に大きなツケを先送りすることとなり、残念なことです。

そのような中で、達増知事は、先月 27 日の記者会見で「2050 年までの CO₂ 排出を実質ゼロとする」表明をされました。また、続いて今月 2 日には、県北の 9 市町村長による「2050 年までに CO₂ 排出ゼロ」を揃って宣言されて、岩手における後戻りできないパリ協定に向けた活動に勢いを得ることができると期待しています。また、今後のセンター活動の大きな目標としなければならないと、一層意を強くしております。

一方、つい先日、仙台の東北経済産業局において「東北地域エネルギー・温暖化対策会議」が開催され、県の温暖化・エネルギー課長と共にセンター長として出席してきました。

主なお話は、国のエネルギー政策で、資源エネルギー庁の長官官房から、2030 年までに CO₂ を 26%削減する目標について、および 2050 年目標 CO₂ を 80%削減することに関するものでした。

東北電力の環境部長からもお話があり、原子力は将来の CO₂ 削減のベース、石炭火力・天然ガスも主力電源、いわゆるエネルギーミックスで達成するという説明で、各県はじめ出席者からは異論も出ず、小生としては、県の知事宣言と相反していて危機感を持ち、異議を申し上げました。

(国としても東北電力もパリ協定に従わないと言うことなのか? ・明快な答えは有りませんでした)

世界は正しい方向に大きく動いています。トランプ政権下のカルフォルニアに於いては、2040 年までに CO₂ 排出ゼロを宣言していて、後戻りできない温暖化対策は、企業も自治体も早く取り組みればビジネス、遅れれば遅れるほど衰退に向かいます。

岩手県は、知事の宣言通り、着々と実装してゆくことが求められていると思っています。

本日の協議会では、委員の皆様のご忌憚のないご意見を頂き、今後の岩手県センターとしての活動改善の機会と致したいと思っています。

よろしくご審議いただきご評価くださいますようお願いいたします。

3) 両センターの評価方法の説明

岩手県環境生活部環境生活企画室 成田主査より

- ・評価シート 11 月末時点の事業の実績
- ・評価項目について法人としての活動を評価

センター事業について、評価結果によっては 3 年間の継続が可能。委託をして良いかどうかの評価となる重要なポイントとなってくる。皆様の忌憚のないご意見を宜しくお願い致します。

4 議事

1) 両センター事業実績説明

○議長は会長が行う

○議長：中島 清隆氏進行

両センター業務の実施状況の説明をお願いします。

○環境学習交流センター/岩手県地球温暖化防止活動推進センター

佐々木 明宏副代表理事/事務局長より

冒頭「新岩手県環境学習推進基本方針」(平成 18 年 4 月発行)について

岩手県における環境学習背景と目的などについて説明。
センターの事業の補足情報としていわてSDGsカフェについて説明
主催：いわてSDGsカフェ実行委員会を立ち上げ毎月第3水曜日18:00~20:00開催。
(資料参照)

丸尾

SDGsカフェについて説明

持続可能ないわての未来を目指し、SDGsに関心を持つ方々が集い。気軽に真面目な対話を楽しみながら学び合うカフェ。

番外編も含め10回開催。

環境のジャンルに留まらないテーマを扱うため、今まで参加したことがない参加者が来る。町会議員、行政、企業、教員、大学生、高校生、議員、自治体職員等。

岩手らしさとは何かと考えたときに

SDGsの理念「誰一人もとに残さない」と宮沢賢治の農民芸術論でしるした言葉「世界が全体幸福にならないうちは個人の幸福はありえない」の二つの言葉が同じことを言っている。もともと宮沢賢治が言っていたことである。

佐々木

知事の2050年温室効果ガス0を目指す表明は大きいことだと思う。

SDGsカフェを通して県民、社会の動きが速いことがSDGsカフェを通して感じている。

盛岡駅西口の恵まれた環境をさらに有効活用するためにどうしたらよいか、生の声を拾って環境だけではなく社会、経済についても一緒に課題を解決する取り組みである。

今まで関心を持たなかった人がカフェに参加している。

出発点と10年間運営していく中で見えてきたことはSDGsカフェといった業務とは直接関係ないけれど人の関心が見えてきた。

センターの業務の中ではカフェで得た感触を業務で生かそうと考えています。

自主出張環境学習会では地元の環境活動を知ってもらうということで釜石、大槌地域のラグビーワールドカップに合わせたパネル企画展を行った。展示に関しても手探りしながらフィジーの大使館と連絡取れないなどがあり同じ太平洋のキリバスの名誉領事から協力を得てパネル展示を行った。ウルグアイの電力95%再生可能エネルギーの電力で賄えていることをお伝えした。大槌のミズアオイ、地元の生き物たちに目を向けてきた方々の目線とらえてきたことを共有する機会とした。

命をつなぐ未来館には連日大型バスでたくさんの方が来ている・・・逃げて生き延びたことを伝える場となっている。

エコクラブ交流会の開催について報告。

元素周期年1926SDGs 宮沢賢治とSDGs環境学習講座として実施。

11月24日の2030SDGsカードゲーム体験から地球温暖化対策を考えるはSDGsカフェから発展した事業となった。渋谷晃太郎氏の「SDGs観光×環境」を開催した。

温暖化センターの活動実績として、家庭のエコチェックについては参加を募集中。普及啓発パネル8種を作成しセンター内に展示している。

省エネ・節電キャンペーンについてはクールシェアキャンペーンが終了し、現在ウォームシェアキャンペーンを行っているところです。県内のスポットとの連携によってスポットの紹介を行っている。

次世代自動車については県で取り組んでいる内容を啓発している。

冬エコキャンペーンはだれでも参加しやすい状況をつくって展開しているところです。

連携はうまくいかなかった。登録していただいているスポットが実は共有されていない状況で夏のキャンペーンとしては空振りも多かった。冬は誰でも参加しやすいものということを学習した中で展開し実施している。

以上今年度事業の特筆すべき点をお伝えしました。

センタースタッフ人員体制については人数的にパワー的に例年より少ない中で回している。

現在新たな人材を採用というところです。

前段長くなりましたが、センター14年やっていく中での出発点を改めて共有し、目指してい

ることと今状況の変化を感じているところを共有させていただきました。一部はセンター業務もフィードバックして活動して行きたいということと紹介させていただきました。

中島議長

事務局より業務実績状況について御説明頂きました。

アイーナが設立される前に策定されたた新岩手県環境学習推進基本方針についてお話しいただき環境学習交流センターの目的、位置、理念、役割、位置づけ機能について確認させていただいた。

特筆すべき点として「いわてSDGsカフェ」を中心に、地域循環共生圏のフォーラム、1926年のSDGs、様々な業務に活かされている。

両センターの業務実績報告について御意見ご質問等あればお願いします。

その際両センターについて向けたご質問なのか、それ以外岩手県環境生活部環境生活企画室に向けた質問ご要望なのか明確にさせていただく形にして頂いて、出来ること、出来ないことに関しては岩手県担当課と相談し実現していく形が望ましいと思います。

千田委員

佐々木さんから説明のあったいわてSDGsカフェの感想としては「動きが速くなっていると感じている」と話されましたがどのような点が早いと感じたのか具体的をお願いします。

佐々木

告知期間が短いにもかかわらず参加の申し込みが早い。Facebookで情報収集して岩手でこういうことをやっているということで申し込みをしている方が毎回5名程いる。参加者は平均毎回15名集まっている。最初は30名で大変だったが、ある程度15名20名という参加者の中でそれぞれが関心をもって集まっている。カフェの場もあるけれど終わってからのそれぞれの小さいグループでの話が絶えず、終わってからの交流も行われている。人が求めているニーズ、参画したい強い動機、学んでみたいという様々な動機で最近秋田からの参加、鹿角、県外の参加(宮城県)も増えてきている。参加者からの口コミで広がりを見せている。

千田委員

参加者の方は固定されているのか毎回違うのか？

佐々木

ごく一部3割は同じ方、7割は新しい方。

千田委員

管理PRはFacebookからですか？実行委員会から発信ですか？テーマは毎回違うのですか？

佐々木

PR及び発信はフェイスブックを利用し実行委員会が行っている。カフェそのものはテーマを決めずに「どなたでもどうぞ」ということで行っている。そこから深く学びたいことを次のカフェで行うなど番外編として深める機会も設けている。

千田委員

カフェに対する環境パートナーシップいわての立ち位置はどうなっているのか？

佐々木

実行委員会として場を運営する立場、基本的には集まった方が運営する。ファシリテーション部分にはかかわっているが他は皆さんが持ち寄ってくる情報を交換する場である。

加藤委員

SDGsカフェは何事業ですか？かかる費用はどうなっていますか？

佐々木

センターの場所を借りて行っている別事業。コーヒーは杜のカフェさんより購入し、皆さんからカンパを頂いている。

加藤委員

環境学習というと同じ顔触れ、力尽きてしまっているというこれまでの経過があったけれど、グレタさんがCOP25で発信していることを若い人に発信できるようになってきたが盛岡で行われているとは思わなかった。12月12日の新聞記事で「この子が大きくなった時に蛍が飛び交う空を守っていきたい」というコメントを見て若い人がCOP25のことグレタさ

んが発信していることがつたわって考え始める人が増えたことはうれしいことだ。絡めてSDGsが岩手で策定された総合計画の中に入れられるはずだったのがとりやめた。沿岸局の計画には案の時はついていたのが全体でつくと思っていたがどこでもやらないのでうちも外しますとなって外された。残念に思っていたがSDGsカフェに若い人がフェイスブックと結びついていくことが環境学習にうまくつながればいいなと思っています。

「どの問題でもどんな課題でもすべて繋がっているよ」ということですよ。環境学習のみならず、そこから派生していく問題解決に繋がるかもしれないよということですよ。沿岸とか県北は機運が薄い、できればちょっと沿岸とか・・・手薄、自治体が成熟していればよいが、成熟していない。人材不足、考え方、SDGsもある部署のある課の話となってしまう。環境学習を通して世界に視野を広げる機会となってもらえればいいなと思っていた。ワールドカップで広がりを見せればいいなと思っていた。県北や沿岸、もう少しどうにかならないでしょうか？

生田委員

私もSDGsの画期的な企画いいなと思っていた。

若者が立ち上がっていくうねりを利用して何とかならないのかなと思っている。

沿岸、県北、といわれましたが、実際に県北ではSDGsについて勉強会をしました。何それという言葉が多かったが、会員、市役所、市長にも電話した。環境計画を策定するにあたってSDGs知らなくてどうするのということで職員も何名か出してもらったりして参加を募った。参加をしたら面白かったという感想を聞いて「自分たちの生活に関連する事だよ」と発信していけばいいのかなと思います。

「いわてSDGsカフェ」の広がりを環境パートナーシップさんではどのようにもっていこうかなと考えてらっしゃるのかお聞きしたいと思います。

佐々木

グローバル気候マーチについて補足、櫻井さんお願いします。

櫻井

SDGsカフェに来ていた若い女性2名。以前気候の問題について勉強したいとセンターに来ていた方です。そこでカフェを紹介した。カフェの中で9月の気候変動マーチについてPRしマーチへの呼びかけを行った。また2回目の気候マーチ11月29日についてもPRした。ベビーカーを押したお母さんも参加。気候変動マーチは菜園不來方橋から大通りをマーチし沿道の方に手を振ってPRした。昔はデモといったが、いまはマーチといっている。楽しく沿道の方に手を振ると手を振り返してくれる方もおり気候変動に対する関心の深さを感じた。岩手日報、盛岡タイムス、毎日新聞、読売新聞にもとりあげられこれまでなかったことである。気候マーチは今後も定期的に行っていきたいと話していました。

世界中の若者が声をあげてきたということは自分たちが生きていく時代が大変なことになってきたという危機感の表れではないかと思っています。

齊藤

これまでの環境学習講座には参加していない方が多いというのが印象。それぞれ活動されている方が多いので魅力的な方が多く、活動の内容を知ることによってそことつながる貴重な機会だなと思っているところです。

加藤さんがおっしゃった沿岸への発信としては、本日沿岸広域振興局の刈谷さんへ情報提供を行っております。「前向きに検討します」とのことでしたので開催できるようにお声がけ等行っていきたくとおもいます。

佐々木

SDGsカフェの今後ということで矢巾町のフューチャーデザインの紹介。

矢巾町のフューチャーデザインは東京の大学でもかなり注目されている。

2060年の姿を見る⇒2060年から2019年の人にメッセージは無いですかといったデザインである。財務事務所の方も参加されている2060年の目指す姿から見てどうするのかという事。

野澤

経産省の温暖化に対する考え方。今現状の中で考えるのは無理がある、将来どうあるべきか、

その世界はどういう世界なのか？未来の姿から今の姿を見るというバックキャストイングするという事。いま何をするのか、いま何をしてはだめなのか考える必要がある。それとフューチャーデザインは全く同じ考えである。

アメリカのインディアン6つの種族の連邦国があるが、(アメリカとカナダにまたがっている)お互いに平等な立場で誰一人も取り残さない思想で7代先のことを今考えてやらなければならないことを昔から共有されている。その考え方は正しい。目標を達成する近道でもある。環境パートナーシップいわてとしてはフューチャーデザインに注目した活動をしたいと考えている。1月にフューチャーデザインの大会がある。矢巾町もそこで発表する。

加藤委員

ということは両センターではセンターのいろいろな事業の中で例えばアドバーザー派遣を行って水生生物調査を行ったときに甲子川はこれからどうなるのかへの視点、SDGsの視点も大事なのかなと思う。研修会もなかなか出られないのでローカルに来てやっていただければと思う。はっきり言って人数は集まらないと思うが自治体にも声をかけ活動の視野を広げるチャンスを頂ければと思います。今までやってきた活動の視野を広げるチャンスがほしいなと思います。

環境学習はやっていかなければならない。学校単位の海岸林は良い事例だと思います。人数をまとめた中での環境学習を行っていったらどうか。

佐々木

命をつなぐ未来館も連携して行いたいといっている。

ぜひ協力させてください。

バックキャストイングができるのはフューチャーデザインのよいところです。

中島議長

委員の皆さま貴重な御意見いただき有難うございました。

委員の皆様から頂いたご意見については今後の両センター運営に活かしていただくように岩手県庁当局とセンター受託団体である環境パートナーシップいわてにお願いすることになります。

議長より講評

今年になって世界の状況は変わっているなど感じています。それが日本でも進むスピードはどうか分からないけれど変わってきていて岩手県でも、盛岡市でも今日ご紹介いただいたSDGsカフェに代表されるような機会、状況の変化がある中でSDGsは2030年を目指した人類共通の問題を解決するためのゴールという位置づけで、岩手県庁が発表した「温室効果ガス0目標2050年」等、10年、30年先を見据えたような目標を掲げられるようになったということ自体もこれまでも目標は日本政府が掲げているが、それが岩手県や他の団体が目を向け関心を持つようになった。SDGsカフェのような別の展開が生まれるようになった。それを受け止められるようになったのは冒頭事務局からご紹介いただいた「新岩手県環境学習推進基本方針」に基づいて両センターの業務、積み重ねてきた成果、実績を土台にしながら、アイーナ内の他センターとかかわるような取り組みで連携をしてきた。そこに新たな取り組み流れがある中でSDGsカフェに代表されるような取り組みを受けて両センターの業務にも活用されて行くというのが今年のここまで活動だったのかなと思います。SDGsカフェの流れを含めた取り組みを今後のフォーラムなど両センターの運営にも活かしていただけたらと思います。大事な活かし方だと思います。環境生活部環境生活企画室の皆様との協議、相談、パートナーシップに基づく取り組みにもますます大事になってくるのかなと思います。また、いわてSDGsカフェに集まったいろいろな団体、関係者との連携、パートナーシップも必要となってくるのではと思います。

佐々木

最後の挨拶

事務局

運営委員の皆様には評価項目、評価シートの提出について

提出期限：令和2年1月14日(火)

6. 特記事項

無し

7. 概要・所感	<p>令和元年度第1回目の運営協議会は野澤センター長よりセンター内の改善された展示等について説明を行いその後開催場所へと移動し、議事に沿って会は進められました。4月から11月末までの事業報告となりますが、仕様書に沿った事業については3か月ごとの報告をおこなっていることから今回は特筆すべき点について重点的に説明。また事業とは別に取り組んでいる「いわてSDGsカフェ」についていわてSDGsカフェ実行委員会としての立ち位置などの説明、理解を深めていただく内容となりました。</p> <p>今後12月から3月までの運営及び事業に関しては内容及び安全管理体制も強化し活動を行ってまいります。環境パートナーシップという重要なキーワードを持つ両センター受託団体として「いわてSDGsカフェ」で繋がりを持つことのできた団体及び参加者の皆様と連携協力しさらにより良いセンター運営を行ってまいります。</p>
----------	--